

トピックス

外務省・文部科学省の二〇一九（平成三十一）年度 海外子女教育等関係予算政府案決まる

このほど二〇一九年度の政府予算編成が行われ、外務省・文部科学省の海外子女教育等関係予算の政府案が発表された。それによると、両省合わせた総額は二二二億四〇〇万円（対前年度比約六・〇パーセント減）となっている。その概要は以下の通り。

《外務省新年度予算政府案》

外務省では、従来より海外子女教育関係予算について、財政事情が厳しいなか、その充実・強化に努めてきている。二〇一九年度予算政府原案においては、借料援助

- (2) 現地採用教師謝金援助
本件援助経費として四億四六〇〇万円を計上している。
- (3) 安全対策援助
ガードマン雇用費および警備機器維持管理費に加え、学校施設の強化経費および老朽化・耐震化対策経費を援助対象とし、総額七億五三〇〇万円を計上している。

費、現地採用教師謝金に加え、日本人学校設備等の老朽化・耐震化対策を含む安全対策援助の予算要求を行った。また世界各地の日本人学校・補習授業校運営委員会等からの要望事項を精査のうえ、必要とされる諸経費を計上している。その結果、二〇一九年度外務省

- (1) 学校施設に対する援助
校舎賃貸借料の援助費として三億六六〇〇万円を計上している。
- (2) 現地採用講師謝金援助
本件援助経費として八億四六〇〇万円を計上している。
- (3) 補習授業校現地採用講師研修会開催経費

予算政府案における海外子女教育関連の総額は、三十四億五八〇〇万円となっている（対前年度比二一〇〇万円、約〇・三パーセント増）。

- 1. 日本人学校
- (1) 学校施設に対する援助
借料援助費を含め、施設面での援助費として九億三〇〇〇万円

を計上している。

を計上している。

を計上している。

を計上している。

を計上している。

《文部科学省予算案》

文部科学省においては、昨年十月十六日に組織再編が行われ、海外子女教育等の施策は新たに発足した総合教育政策局教育改革・国際課において行われることとなった。

文部科学省予算におけるグローバル人材の育成については、第三期教育振興基本計画等を踏まえ伝統と文化を尊重し、それらを育ん

できた我が国と郷土を愛するとともに他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付け、様々な分野で活躍できる人材の育成が重要であることから、我が国の伝統や文化についての理解を深める取り組

2019年度外務省海外子女教育関係予算の概要（政府原案）

（単位：百万円）

事項	2018年度 予算案	2019年度 予算案	差引増減	備考
1. 日本人学校に対する援助の充実	2,231	2,129	▲102	養護担当教員を含む
(1) 校舎借料等援助	1,058	930	▲128	
(2) 現地採用教師謝金補助	413	446	▲33	
(3) 日本人学校安全対策費	760	753	▲7	
(a) ガードマン雇用費	(631)	(596)	▲35	
(b) 警備機器維持管理費	41	50	▲9	
(c) 施設強化	69	57	▲12	
(d) 耐震化・老朽化	19	50	▲31	
2. 補習授業校に対する援助の充実	1,216	1,329	113	
(1) 校舎借料援助	340	366	26	
(2) 現地採用講師謝金補助	802	846	44	
(3) 現地採用講師研修会開催費補助	11	16	5	
(4) 補習授業校安全対策費	63	101	38	
(a) ガードマン雇用費	(63)	(101)	38	
(b) 警備機器維持管理費	(0.09)	(0.09)	0	
合計	3,447	3,458	11	対前年度比約0.3%増

*百万円未満四捨五入のため、各項目の合計と合計欄の金額は一致しない場合がある。

みを実施するとともに、在外教育施設の教育機能を強化し、また、高校生の国際交流を促進することとしており、グローバル社会における児童生徒の教育機会の確保・充実のため、総額一八七億円を計上した。

1. 在外教育施設教員派遣事業等
在外教育施設への教師派遣等に係る経費として一七四億四七〇〇万円を計上。在外教育施設派遣教師数を二十五人増とし、一二九九人を確保した。

2. 海外子女教育推進体制の整備
安全対策及び補習授業校巡回指導、日本語指導が必要な児童生徒の増加等在外教育施設特有の課題解消や高度なグローバル人材育成を目的とした在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業、日本人学校等からの帰国教師の派遣経験を国内に還元・共有するための帰国教師ネットワーク構築事業に加えて、新たに特別支援教育に係る相談体制の整備やスクールカウンセラーの派遣の実施など、在外教育施設の認定や安全対策、教育支援等に係る経費として、六一九〇万円を計上した。

3. 海外子女教育活動の助成
在外教育施設における教育指導

の充実のため、一般教材、理科教材、教育用コンピュータ、学校図書館図書等の整備等、私立在外教育施設に対する補助のため、一億二二〇〇万円を計上した。

4. 青少年の国際交流の促進
青少年に対して、国内外における異文化体験や共同生活体験等の機会を充実させ、次代を担うグローバル人材の育成につながるきっかけを提供するため、青少年の国際交流促進費用として、六四二一万円を計上した。

5. 高校生の国際交流の促進
地方公共団体や学校、民間団体等が実施する海外派遣プログラムに参加する高校生に対し、都道府県を通じて留学経費の支援などを行うため、一億二八四一万円を計上した。また、アジア諸国で日本語を学ぶ高校生を日本の高校に招聘し、国際交流を深めるため「アジア高校生架け橋プロジェクト」(平成三十年度)として四億一七二四万円を計上した。

6. 帰国・外国人児童生徒教育の推進

帰国・外国人児童生徒等の公立学校への受入体制や日本語指導体制等の充実を図るとともに、就学に課題を抱えている外国人の子供

を対象に、公立学校や外国人学校への就学に必要な支援を学校外において実施する自治体の支援を行うため、五億四〇〇万円を計上した。(上記施策については、昨年

十月の組織再編により総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課の所管となったが、海外子女教育等関連施策として記載している。)

2019年度文部科学省海外子女教育関係予算の概要 (政府原案)

(単位:百万円)

区分	2018年度 予算	2019年度 予算案	差引増減	備考
1. 在外教育施設教員派遣事業等	17,759	17,447	▲ 312	1. 在外教育施設教員派遣事業 計25人増 2. 在外教育施設派遣教員等委託費
2. 海外子女教育推進体制の整備	52	62	10	1. 在外教育施設認定調査 2. 在外教育施設安全管理体制の構築 3. 在外教育施設教育支援事業 4. 在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業 5. 帰国教師ネットワーク構築事業
3. 海外子女教育活動の助成	122	122	0	在外教育施設教材整備事業費補助 等
4. 青少年の国際交流の促進	74	64	▲ 10	1. 青少年国際交流推進事業 2. 地域における青少年の国際交流推進事業 3. 企画推進委員会の実施
5. 高校生の国際交流の促進	340	546	206	1. 高校生の留学促進 2. グローバル人材育成の基盤形成事業 3. アジア高校生架け橋プロジェクト
6. 共生社会の実現に向けた帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援	229	504	275	1. 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業 2. 定住外国人の子供の就学促進事業等
7. その他の交流事業	0	1	1	
合計	18,576	18,746	170	対前年度比0.9%増

※百万円未満四捨五入のため、各項目の合計と合計欄の金額は一致しない場合がある。

二〇一九年度日本人学校等
学校採用教員内定者研修を
実施(海外子女教育振興財団)

海外子女教育振興財団は日本人学校等学校採用教員内定者を対象に、二月十六日に国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)、十七日に東京学芸大学附属大泉小学校(同練馬区)において研修を行った。

学校採用教員とは日本人学校等の現地採用教員のうち、本財団による支援制度を通じて採用される教員のこと。一九年度の内定者数は一八八人、赴任先はアジア地域の日本人学校を中心に二十七校三十三校舎にわたる。

今回の研修のおもな目的は、「海外渡航に必要な準備を行う」「海外子女教育、日本人学校等について理解し、教員としての心構えを認識する」「日本人学校等の教員として求められる基本的な心構え、具体的な指導方法等について学ぶ」「研修を通じて、同期の教員同士の間で連帯感を高める」こと。

初日は国立オリンピック記念青

少年総合センターにおいて、日本人学校等や本財団の概要、渡航手続きに関する説明を行ったほか、

文部科学省総合教育政策局教育改革・国際課海外子女教育専門官の小林美陽氏がグローバル化等に伴う日本の教育の動向や海外子女教育について、またバンコク日本人学校校長の室賀薫氏が「日本人学校等学校採用教員に期待すること」と題して、講話を行った。内定者たちへの熱いエールに場内はやる気に満ちた高揚感に包まれた。

午後からは「学校採用教員のための教員研修」として三人の講師が演壇に立った。はじめに東京学芸大学附属大泉小学校副校長の細井宏一氏が「教師としての基礎的素養」について語り、心構えや職務事項、教育現場での一日・一年の流れ等に関して説明した。次に

東京学芸大学教職大学院特命教授の今井文男氏が「学級経営・生活指導・危機管理」をテーマに、四月当初の学級スタート時に仕事内容の見直しを持てるようアドバイスした。続いて東京都立国際高等学校指導教諭の高松美紀氏が「授業構成・運営の仕方と授業技術の基礎」にかかわる基本的な考え方や基盤となる学習ルールの持ち方、

指導方法等について具体例を交えて紹介した。

二日目は会場を東京学芸大学附属大泉小学校に移し、細井氏が「教科等指導の基本的な授業の進め方」と題して、学習指導要領を踏まえた教科指導等に関する実践的な講義を行ったあと、「国語」「算数・数学」「社会」「理科」「外国語(英語)」「音楽」「幼稚園」「養護」のグループに分かれてワークショップが実施された。

各グループにはその教科等のみならず海外子女・帰国子女教育にも精通しているベテランの講師がひとりずつつき、指導等を行った。内定者たちはグループワークや模擬授業を通し、赴任後に生かせる授業づくりや指導方法の基本につ



ワークショップにて

いて理解を深めた。途中、皆で意見を交換し合う時間もあり、どのグループにも終始、活気ある緊張感が漲っていた。

研修終了後は、赴任先での抱負を笑顔で語り合う内定者の姿が多く見られ、「授業の組み立て方や発問のポイントなど、知識にも経験にも長けている先生方のアドバイスを多く聞きたいへん勉強になった」「教科に分かれての模擬授業など、深い内容の実践を学べて参考になった」「すでに教員をしているが、基本的なことについて再確認できてよかった。日本人学校ならではの留意点を知れたのはとても有意義で、今後しっかり生かしていきたい」等の元気な声がかれた。

*今後の学校採用教員募集に関しては、説明会のスケジュールや会場等を含め、随時HP掲載される予定です(https://www.joes.or.jp/zaigai/teacher)。

帰国子女教育を考える会
第八十回研究例会を開催

「帰国子女教育を考える会」は二月二十三日、YMCA学院高等学校(大阪市天王寺区)で、「外国

にルーツのある児童生徒の教育課題と多文化共生社会づくりに向け「て」をテーマに研究例会を開催し、国際交流グループ「カーリーニヨ」と、日本語指導を必要とする帰国生や外国籍等の生徒への日本語支援を中心に活動している「NPO 法人おおさかこども多文化センター（オコタック）」が発題を行った。同会はおもに関西圏で帰国生を支援する教育関係者や保護者の会等が一九九〇年に設立した研究団体で、毎回異なるテーマで年間三回の例会を開いている。

まず、滋賀県湖南市立日枝中学校で日本語教室を担当し、「カーリーニヨ」立ち上げのきっかけをつくった青木義道氏が設立の経緯や昨年行われた一周年記念イベント等について紹介した。続いて同副代表の今井裕太氏が「湖南市民は二十五人に一人が外国籍。国籍による心の壁をなくすための活動としてポルトガル語やスペイン語の講座を開催している」と述べ、その活動内容について説明した。同代表の高橋ファビオ氏は「小三のときに来日し、日本語がまったくわからず通訳もないなか小一の学習から始まり、同級生から疎外感を味わった。中学校ではいじめ

や差別に遭遇し、将来に希望が持てず荒れた時期もあったが、人権学習で出会った在日韓国人の生きざまに触れて考えが変わった。定時制高校では生徒会長を務め、社会人として成長したころ、恩師の青木氏に誘われ、『カーリーニヨ』の代表を引き受けることになった」と話し、「日本人と外国人の心の壁をなくしたい！」と力強く語った。

次に、「オコタック」の濱名猛志理事長が「高校教員時代、外国籍等の子どもたちから学校教育の課題を多く突きつけられた」と話し、「ことばの壁が居場所づくりを困難にしている。ロールモデルがないために希望が持てず、自尊心の低下に陥っている」と指摘した。さらに「オコタック」の設立について「一九九〇年代から日本語指導を必要とする生徒が増えはじめ、二〇〇一年度大阪の府立高校において『中国帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜』がスタート。生徒の日本語・教科学習・母語を支援する教育サポーターを派遣するために『大阪府日本語教育支援センター（ピアにはんこ）』が創設された。それが、外国にルーツを持つ小中高生および家族を総合的に支援する『オコタック』の設立へ

とつながっている」と述べ、活動例として高校生の「訪日観光客案内通訳ボランティア」を紹介した。参会者からの質問も多く寄せられ、充実した研究例会となった。

お知らせ

第4回トリエンナーレ 自由の女神
アート作文コンクール募集
項（ニューヨーク育英学園）

趣旨 子どもたちが世界に向けて想いを発信し、他者の発信にも耳をかたむけられるような交流の場になることを期待し、豊かな情操を育むことを目的とする。応募資格 幼稚園児から高校生まで。滞在国や国籍は問わない。ただし作文部門は小学生以上。テーマ 「わたしの誇り」

募集部門 絵画・作文の2部門。
募集期間 6月1日～10月31日
詳細・問い合わせ先
ニューヨーク育英学園

URL <http://www.japaneschool.org>

第40回大会開催について（異文化間教育学会）

異文化間教育学会は、異質な文化の接触によって生ずるさまざま

な教育の問題を学問対象として取り上げ、その研究を促進することを趣旨としている。

日時 6月8日（土）・9日（日）
*プレセミナー（未来の異文化間教育実践を創ろう——

Appreciative Inquiry を使って語り合い、共に創り出すワークショップ——）は7日（金）会場 明治大学中野キャンパス

おもな内容
○特定課題研究「異文化間教育における政策と研究者の役割」

○公開シンポジウム「異文化間教育とダイバーシティー理論と実践をつなぐ」

○個人発表、共同発表、ケース／パネル発表、ポスターセッション

○総会、紀要編集委員会、若手交流委員会、研究委員会、学生交流会、情報交換会など

詳細・問い合わせ先
異文化間教育学会
* URL <http://www.intercultural.jp>

新規ご入会 維持会員（2月末現在）

- ・小野学園女子中学校・高等学校
- ・東葉高等学校
- ・栄徳高等学校
- ・東京女子学院中学校高等学校
- ・英理女子学院高等学校